

健口だより

第41号

令和3年11月8日

発行者 日高歯科医師会 山口一史
発行所 日高郡新ひだか町静内御幸町3丁目
TEL 0146(42)1486

歯周病と全身疾患について

歯周病という言葉聞いたことがあると思います。昔は歯槽膿漏(しそのうろう)と呼ばれていました。歯周病はお口の中だけに起きる病気というイメージがあるかもしれませんが、しかし、歯周病が、あらゆる病気を引き起こす原因であることが分かっています。

「歯周病とは？」

歯周病とは歯ブラシが不十分な部分に付着するプラーク(歯垢)と呼ばれる細菌の塊により、歯を支える骨(歯槽骨)が溶けていく現象です。歯石を放置していたり、しっかり歯ブラシができていないと、プラークはどんどん多くなり、酸素が行き届かない場所を好む細菌(嫌気性菌)が増えてきます。この嫌気性菌は身体の中に侵入しようとし、体はそれを防御しようとし、この一連の過程で、歯肉の出血・腫れ・発赤を伴います。これにより連鎖的に様々な毒性物質が発生します。この毒性物質は歯茎の毛細血

管の中に入り、全身へ駆け巡るのです。

「狭心症と心筋梗塞」

血管が狭くなる動脈硬化により、心臓に血液を送ることが難しくなる病気です。歯周病により発生する毒素が血液の塊を作ります。この塊はお粥状の脂肪性の沈着物で、動脈硬化を引き起こします。

「脳梗塞」

脳の血管が詰まる病気です。歯周病の人は3倍近く脳梗塞になり易いそうです。

「糖尿病」

歯周病は糖尿病の合併症の一つであり、逆に歯周病になると糖尿病の症状も悪化させることが分かっています。歯周病をしっかりと治療することで、血糖値が改善することもわかっています。歯周病であるということは、いつも体に炎症が起きていると言い換えることができます。慢性的な炎症により、肥満、糖尿病を加速させるのです。

「誤嚥性肺炎(いんえんせうはんえん)」

食べ物や異物を誤って気管や肺に飲み込んでしまうことで発症します。免疫が衰えている高齢者や、有病者は発症しやすく、気づかないうちに細菌が肺へ侵入してしまうことも多いのです。

「その他の病気」

骨粗鬆症・妊娠性歯肉炎・低体重児早産等も、歯周病が原因のひとつであるといわれています。

骨粗鬆症は全身の骨がもろくなっている状態です。お薬として、ビスホスホネート製剤を処方されることがありますが、このお薬を服用している方は、抜歯の後、周囲の骨が腐るなどのトラブルが報告されています。もし歯周病でグラグラしている歯があったとしても、決して自分で無理に抜かないように気をつけてください。



